

平開票區

用意の徳利に 各派一喜一憂

電話は絶え間なし

傳令情報飛ぶ

平町第三小學校開票場は朝來成績如何と各派關係者が定刻前から押し寄せ開票前既に一抹の殺氣さへ含む。凄愴な氣分が漲つたが一般は直接關係も薄い上に幾分肅正宣傳がき、過ぎた故もあり案外少なかつた。時計の針が定刻八時を刻むと同時に管理者乾武縣庶務課長立つて開票を宣言するや六候補の立會人並に一般參觀人も流石に緊張、係員、手先づ平開票場管内十二ヶ町村投票数を調査に入り

好問 飲野 草野 高久 豊間 夏井 鹿島 平 神谷 大浦 四倉 内郷

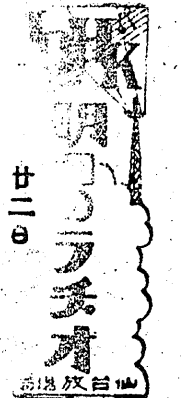
の順で漸次投票数を調査、十時半管内全投票数終了して好問を筆頭に得票調査するところより、一般參觀者も各候補者の勞務員に混つて約十名を算し人々の目は紙片の謎を解かうと一齊に係員の手許に注がれて場内に緊張の氣みなざり、傳令はさびさを接して飛び意外に永いくトップの好問村得票審査にやつきとなつて豫想を作り立會人と勞務者の間に聯絡網横に交はされるも眞假な風景である。

時に某派の勞務員に依つてもたらされた小川開票區の得票に次いで半窪 赤井 又祖田 栗田 錦村の情報入つて一喜一憂 情報毎に悲喜交々の各派の顔面神経は異常に活躍する。此の頃から勞務者には秘かに用意した一升徳利から寒さのさびの靈藥御神酒の各人の體內に入り流石用意周到さを見せるなどしつゝ十一時四十分に至つて平開票區第一回の好問得票数判明して俄然場内の空氣硬化した

平開票區

十二町村投票

本一時半判明分
平町開票區管内十二ヶ町村投票数は左の通り(括弧内は有権者数)
△好問二、四〇八(二、七二七)
△飯野五九五(六、八六六)
△草野九一〇(九、八三三)
△高久四九四(五、六三三)



梅干が大好き

梅干が大好き
平第一校が嗜好調査

梅干が大好き
平第一校が嗜好調査

梅干が大好き
平第一校が嗜好調査

最後の榮冠は誰の手に

本夕まで石城と相馬一部發表

開票が気がかりぢや

七十五老爺頑張る

豊間の鈴木政次郎氏

平開票區第三小學校一般參觀者中には午前五時頃より頑張つてゐた人達の姿も見えた中に一人の白髯の老爺が立混つてゐたが右は豊間村大字豊間字柳町鈴木政次郎(七十五)さんで生れつき選挙が飯より好きとあり昨夜か

平町に泊りかけて来てゐる今日の開票にはあの寒い會場にも早くから頑張つて成績を見て居り「あゝ、晝だまた来るよ」と正午のサインを聴いて歸つて行つた

四倉女青活動 四倉

磐崎小學校の綴方講習

綴方講習

今晚の部
後六〇〇 子供の時間
電話「雪の女王」大阪放送
送話研究會
後六、一五 基礎英語講座
村岡博
後四〇〇 講演「石炭を直接石油へ變へる方法」
就、一件義定

明日の話題 氣象通報
番組表
明日の部
前七〇〇 基礎ドイツ語
講座 武内大造
前七三〇 朝の修養「莊子の教」終松村介石
前八〇〇 家庭講座
「神経痛の療法」竹村齋治
後八〇〇 尺八「虚空鈴」
慕一久保交堂他
後八、一五 連續講談「鼠小僧」終席 神田伯治
後九、三〇 時報ニュース

梅干が大好き
平第一校が嗜好調査

梅干が大好き
平第一校が嗜好調査

梅干が大好き
平第一校が嗜好調査

梅干が大好き
平第一校が嗜好調査

平職業紹介所報告
職を求める方
△新開配達 廿二才迄 月給九圓
△女中 四十才迄 月給六圓
△三助 五十六才 尋卒
△子守 十一才 尋卒
△自動車助手 廿二才 高卒
△トラック助手 廿五才 高卒



解る瓦解の謎

悟道軒圓玉(作) 丸尾至陽(書)

五三 さて不思議

伊藤俊輔は言葉をつまみ、
「只今申し上げた次第に
て内田は腹を割きましたか
彼が自刃いたしましたか
吾々も同意のものとお疑
ひを蒙るは甚だ迷惑至極、
この儀宜しく御賢察くださ
る様」

石谷因幡守これを聞いて
石「控ろ、内田に細打つて
目付に引き渡す所存であら
ば、腰のものを取り上げね
ばなるまい、しかるに帯刀
のまゝにて有備館に差置き
しは彼を自殺なさしめるた
めであらう、然らば其方共
はこの度の一擧に何等の關
係なきものとは云はれまい
……」

とかう急所をついた、こ
れは道理です、繩をかけて
突き出す意志があらば刀は
取り上げて置かずばなるま
い、それをいたさぬは怪し
いといふ、もつとも長州の
藩士のうちで安藤侯襲撃の
ことについて内々同意いた
してゐる者もあつたのこと
櫻田に井伊大老かうたれ
た時襲撃した者は水戸の
浪人が多いがその中に薩
藩、有村治左衛門かゝる、
これは同藩から七八人出る

ことになつてゐたが國許に
て閉門禁足を申し渡され、
嚴重なる看守のもとにおか
れたことゝて人々がこの一
擧に加はることが出来なん
だ、それで代表者として有



村治左衛門が水戸浪士と
もに大老をおそうた、これ
らが幕府に知れてゐること
ゝて今度の一件にも長州藩
士の内々同意者かあるとに
らみ、それでかういふ質問
をした、ところが伊藤俊輔
は有名な議論家のことです

からこんなことにはおどろ
かぬ
伊「これは異なことを承は
り申した、さて不思議に
ござる」
石「何と申す今一言申せ」
伊「異なことを承はりました
な、奇怪至極」
石「控ろ、奇怪至極とは如
何なる点を指して申し居る
か、予が問うたことが奇怪
か」

下の御爲と存すし故、その
心情を推察いたせばあはれ
と存じ、それ故武士として
の待遇を與へました、武士
としての取扱ひを仕ります
には帯刀をなさしめるが當
然、但しこれがあやまりで
ござりましたか、意外なる
おたづねを蒙り驚き入りま
してござる」
と答へた

へ出たその間に自刃いたし
ましてござる」
石「追つて呼び出す、本日
はさされ」
こゝで二人をさげた、桂
に伊藤は評定所を出て屋敷
に戻つたが
小「オイ伊藤、これからど
うなるかの、幕府もこのま
ゝにはすておくまい、何と
かやかましいことを云ふで
あらう」
伊「左様、無事ではすむま
い、不調法の至りといふ申
し渡しのものと腹を切らせ
られるかな」
小「そんなこともあるまい
まあ、成行きに任して置
け、それにしても内田を死
なしたは残念だ」
伊「追ひ、有爲の人物が
すくなくなる、これがまこ
とに遺憾だよ」
と云つたが、どんな沙汰
があるかとそれを待つてゐ
ます。

貴方の御家庭に

お手不足は御座いませんか

本會を御利用下さい

直に家政婦派出します

料金は極め低廉で

町切 料金は極め低廉で
御病人の付添 お留守居番
炊事や雑用 年寄やお子さんの付添

派出多忙に付會員至急募集

上原家政婦會

平町細尾町二(電話二二番)
會主産婆 上原通子

小生儀一月二十日以来急性肺炎
に罹り静養中の處全治仕り従前
の通り診療に従事致し候間此段
廣告仕候
二月二十一日

田町 市原醫院

市原卯太郎

魚清のサービス

たらちりなべ	三十	さしみ御飯	二十五
ちりなべ	三十	吸物付	三十
あなごなべ	三十	天ぷら御飯	三十
親玉のよせなべ	三十	海老天ぷら	四十
かきなべ	三十	海老天井	三十五
ねぎなべ	三十	海老フライ	三十五
煮込なべ	三十	鳥なべ	三十五
牛なべ	三十五	なべ豚	三十五
かきフライ	二十	親子井	二十
かき酢の物	二十	すし	二十
あんこも酢	十五	ちらしもく	二十
		御子様すし	二十
		まぐろすし	二十五
		鐵火井	二十五
		鐵火卷	二十五
		好たけ巻	二十五
		あなご巻	二十五

平二警察署通り

魚清食堂

電話六三三

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお奨め致します

平町田町六九

喜多流 仕舞 白土會
入會隨時 電話七十七番